

# 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究\*

## — マルアジ、マサバの標識放流調査 —

武田 保幸

### 目 的

200カイリ水域内漁業資源調査事業の指定魚種以外で、本県沿岸漁業にとって重要な魚種について、資源診断のための基礎資料を整備する。

今年度は前年度に引き続き、従来から比較的情報の少なかったマルアジ、マサバの移動回遊に関する知見を得るため、調査を実施する。

### 方 法

1995年6月に日高郡由良町衣奈浦漁港内でマルアジ1,384尾、マサバ1,055尾の標識放流を実施した(表1)。いずれも1歳魚主体で、一本釣(サビキ、通称チョクリ)によって釣獲されたものを2~3日蓄養したものである。標識の装着は港内のイカダ上で行い、その場で放流した。標識は「WK5」と印字した長さ35mmのアンカータグで、魚種別によりタグの色を変えた。再捕報告の依頼は、図1の様式で太平洋岸の水産試験研究機関、県水産課、県内市町村、県内各漁協、遊漁団体あて送付した。

表1 平成7年度の放流状況

魚種	放流年月日	放流場所	放流尾数	標 識	尾叉長(cm)
マルアジ	1995.6.24	和歌山県日高郡由良町衣奈浦漁港内	1,384	アンカータグ(35mm) 黄色「WK5」	19~25
マサバ	1995.6.24	和歌山県日高郡由良町衣奈浦漁港内	1,055	アンカータグ(35mm) 白色「WK5」	25~33

\* 沿岸重要漁業資源管理研究事業費による。

標識魚再捕報告書

<p>1. 再捕年月日</p> <p>2. 魚種、魚体長 (または体重)</p> <p>3. 標識 (標識を添付して下さい)</p> <p>4. 再捕場所 (略図、緯度・経度等を記入して下さい)</p> <p>5. 再捕漁具・漁法 (一本釣、まき網等)</p> <p>6. 再捕者住所・氏名・電話番号、所属漁協</p>	<p>送付先 〒649-35 和歌山県西牟婁郡串本町串本1551 和歌山県水産試験場資源部 T E L. 07356-2-0940 F A X. 07356-2-3515</p>
---	---

図1 標識魚再捕報告書の様式

結果および考察

マルアジの再捕結果を表2、図2に示す。再捕率はマルアジ1.3%、マサバ0.2%で、マルアジについては前年度の再捕率を大きく下回った。

マルアジは、経過日数2日以内に放流場所に近い湯浅湾内で再捕されたものが全体の88.9%を占めており、前年度とほぼ同じ傾向を示していた。つまり、マルアジ1歳魚は産卵期の6~7月においても沿岸性が強く、大阪湾~播磨灘へ産卵回遊を行う2歳以上群とは回遊経路が異なることが考

表2 平成7年度の再捕結果

マルアジ						
再捕年月日	経過日数	再捕場所	海域	漁法	尾叉長(cm)	尾数
1995.6.25	1	逢井沖	湯浅湾	定置網	20~18	11
26	2	逢井沖	湯浅湾	定置網	20~18	2
26	2	カンドリ瀬	湯浅湾	すくい網	18	3
7.19	25	衣奈地先	湯浅湾	一本釣	22	2
計						18

マサバ						
再捕年月日	経過日数	再捕場所	海域	漁法	尾叉長(cm)	尾数
1995.7.18	24	徳島県伊島近海	紀伊水道外域	一本釣	25	1
31	37	印南沖	紀伊水道外域	まき網	30	1
計						2

えられた。

マサバについては7月に紀伊水道外域の印南沖と伊島近海で1尾ずつ再捕され、外海へ移動する傾向がみられた。

マルアジ、マサバとも現調査では再捕率が極端に低く、有意な結果が得られていないことから、今後、放流尾数を増やし、周年にわたって放流する大規模な調査が有効になるろう。

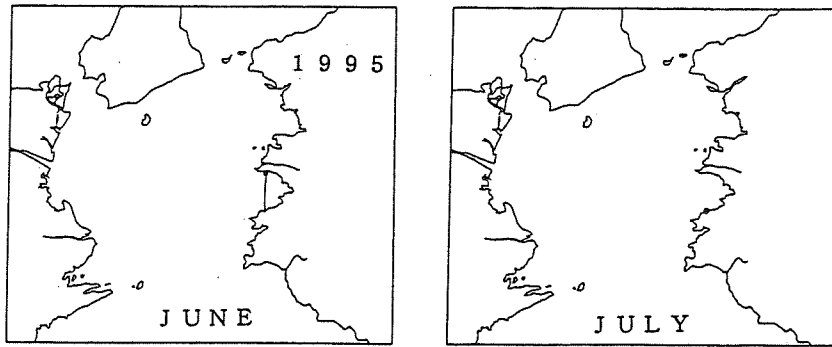


図2 マルアジの移動状況